

児童室だより No. 73(2010. 10発行)

読んでみませんか 児童室がえらんだものがたり・ちしきの本

本の情報	内容
<p>『むしのかお』</p> <p>新開孝写真・文 ポプラ社 2010.7 【幼児～】</p>	<p>むしのかおをじっくり見たことはある？近づくと逃げてしまうものや、危険で近づけないものもいて、面と向かって観察するのはとても難しい。でも、この本を見て！虫の顔のアップの写真が満載。かわいらしい顔、おもしろい顔、こわい顔、虫にもこんなにいろいろな表情があるのかとびっくりするよ。</p> <p>(J486-シン-1110011100)</p>
<p>『煮干しの解剖教室』</p> <p>小林眞理子文 泉田謙写真 仮説社 2010.7 【小高～】</p>	<p>料理のだしに使う煮干は、カタクチイワシという魚。この煮干を解剖してみよう。特別な道具は必要なし。大きめのお腹がわれていない煮干を選び、手で割ってみてごらん。頭蓋骨や脳、心臓、胃や腸、肝臓などの消化器官がつまっているよ。小さな魚の体から、生きものの体の仕組みや暮らしがわかってくる。</p> <p>(J487-コハ-1110021878)</p>
<p>『外国から来た魚 日本の生きものをおびやかす魚たち』</p> <p>松沢陽士著 フレーベル館 2010.7 【小高】</p>	<p>著者は淡水魚の写真をとる水中カメラマン。今、日本の川や湖には、日本固有の魚は少なく、外国から来た魚が大量に泳いでいる。なぜ日本の川や湖に外国の魚がいるのだろうか。害虫駆除用、食用、観賞用として輸入し、いらなくなると川や湖に放り出す。人の身勝手な行動が、生態系をこわしていく。外来種が与える影響のこわさを知らされる。</p> <p>(J487-マツ-1110025590)</p>
<p>『アリクイにおまかせ』</p> <p>竹下文子作 堀川波絵 小峰書店 2010.5 【小低】</p>	<p>ココちゃんのかたづけがにがて。部屋はいつもちらかっている。かたづけをしないとおやつはなし、とおかあさんにいわれたココちゃんのところ、「アリクイかたづけサービスしゃ」のアリクイたちがやってきた。あつというまに部屋はきれいになったけれど、しばらくするとまたちらかて…。ココちゃんは、「アリクイかたづけサービスしゃ」に、「とことんぴっかぴかコース」を注文した。</p> <p>(J913-タケ-1109922281)</p>
<p>『ハンター』</p> <p>ジョイ・カウリー作 大作道子訳 偕成社 2010.6 【小高】</p>	<p>1805年、マオリの奴隷少年ハンターは、見えないはずのものを見とおせるという、特別な能力があった。主人たちとともに、フィヨルドランドの森で幻の巨鳥モアを追うなか、ハンターは不思議な光景を見る。それは、青い目をしたフフ（白人）の少女の姿だった。なぜか助けが必要だと感じたハンターは、主人の元から逃走し、少女を探しに行く。2006年ニュージーランド・ポスト児童書及びヤングアダルト小説賞受賞作品。</p> <p>(J933-カウ-1109932312)</p>
<p>『アニーのかさ』</p> <p>リサ・グラフ作 武富博子訳 講談社 2010.7 【小高】</p>	<p>10歳の少女アニーは、5ヶ月前に大好きなお兄ちゃんを病気で亡くして以来、心配してばかり。自転車に乗るときはヘルメット、ひざあて、ひじあて、テーピングが必需品。外で元気に遊ぶこともせず、病気の本を読みふける毎日。悲しみにくれる両親は、アニーの支えにはならず、親友のベスとはけんかをして絶交状態。そんな時、近くに引っ越してきたおばあさんと親しくなっていく。</p> <p>(J933-グラ-1110025661)</p>

本の情報	内容
<p data-bbox="213 259 579 300">『男子って犬みたい！』</p> <p data-bbox="161 365 635 472">レスリー・マーゴリス作 代田亜香子訳 PHP研究所 2010.8 【小中】</p>	<p data-bbox="703 230 1490 450">11歳のアナベルは、母親が彼氏と一緒に暮らすことになり、新学期から転校した。かわいい子犬も飼い始めたが、子犬はいたずらが大好き。根気よくしつけなければならない。一方、新しい学校では、アナベルはいじわるな男子たちに悩まされていた。男子っていたずら好きな子犬みたいと思ったアナベルは、愛犬をしつけるための規則を応用し、男子をしつけることにした。</p> <p data-bbox="1209 479 1490 510">(J933-マコ-1110017258)</p>
<p data-bbox="268 566 525 607">『小さな可能性』</p> <p data-bbox="193 669 603 777">マルヨライン・ホフ著 野坂悦子訳 小学館 2010.5 【小中～小高】</p>	<p data-bbox="703 537 1490 757">キークのパパは医者。戦争で苦しむ人たちを助けるために、外国に行っている。キークはパパのことが心配で、パパが死んでしまう可能性を小さくしたいと思った。そして、「パパが死んじゃった子」になるよりも「パパと犬とネズミが死んじゃった子」になる方が、可能性が低いから、飼っている犬やネズミが死んじゃえば、パパが死ぬ可能性は小さくできると考えた。</p> <p data-bbox="1209 786 1490 817">(J949-ホフ-1109922165)</p>